

2月3日（水）12時から、東海大学校友会館において第450回月例会を開催しました。当日は、一般社団法人日米協会会長、前駐米特命全権大使の藤崎一郎氏より「アジア太平洋のこれから—TPP、米国、中国」と題する講演が行われました。出席者は74社87名でした。講演要旨は次のとおり。

アメリカ大統領選挙

今年は例年より選挙の行方は分からなくなっている。日本はとにかく変に予想して誰だと困る、誰だと良いなどと言わないのが大事。じっと見ていることだ。今オバマ大統領の人気は低い。しかし医療改革にしてもキューバ、ミャンマー、イランにしてもこれまでどの大統領もできなかったことをやった。後世の評価は高まるかもしれない。

中国

最大の問題は、社会主義を標榜しつつ真逆の格差社会をつくったこと。国民の不満を吸収するため腐敗退治や領土拡張で内外の敵をつくっている。習近平の「中国の夢」というのは実際は、なんとかしてこの体制を維持するということと見ていいだろう。

米中関係は振り子のようなもの。悪くなったり良くなったりする。そうしたものとして見ておくべきである。

中国のAIIB、新シルクロードなどの一番の問題は中国が一人で構想をつくり参加国を募ること。新しい組織づくりにあたっては、TPPのように皆で揉んでいくこと及びアジアの国のみでなく米国も入れておくことが大事。

北朝鮮の動向

新指導者のもと予見不可能性が增大していることは事実。しかし金正恩は祖父、父同様に仕返しされそうなことは避けるが、他方核やミサイルは続ける姿勢をとっており、大きな意味で路線は継続されている。

安保法制

内閣支持率が落ちていないことは、多くの国民が米国との関係強化が適当でありこの法案でそれができるならいいと考えているからではないか。皆が口で言うほど意義が分っていないわけではないと思う。



一般社団法人日米協会会長
前駐米特命全権大使 藤崎 一郎 氏